

No.665 (改題625号)
2025年
4月23日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所：新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三蔵工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

ひょうご

碑

87
物語

豊岡市街の中心部に3つの主要道路が交差している交差点がある。信号は無く、ロータリーになっている。日本でも数少ない国道にあるロータリーで、大正時代にフ

ンスのエトワール広場を参考に造られた。ロータリーの中心部は円形の公園(寿公園・直径33m)になっていて、その中央部に古河財閥を興す礎となり「鉾山王」と呼ばれた中江種造(1846年〜1931年)の大きな座像が建っている。中江種造は、豊岡市の上水建設に多大な貢献をした。旧豊岡市の上水道は、1922年(大正11年)に同市二見の湧き水を水源として通水した。当時、

あるこの碑は、上部に「洪益」と書かれ、1931年に立てられた地区整理の碑であるというが、



豊岡市街の中心部のロータリーの中の公園に豊岡市の上水道建設に多大な貢献をした中江種造の像と並んで立つ

【メモ】JR豊岡駅から寿町を北東に徒歩約15分。

豊岡町地区整理碑

(豊岡市泉町)

飲料水や生活用水は、円山川が井戸水に頼っており、旧豊岡市が衛生的な水道を造るために鉾山王として財を成した中江種造に資金供与を依頼。中江は事業収益の一部を奨学金に充てることを条件に、工事費全額の38万5千円(現在の約200億円)を寄付したと言われている。現在も毎年、水の恵みに感謝する「水道まつり」が開催されている。

被爆80年・戦後80年 憲法はあなたの命と未来のサポーター

戦がかり行動兵庫は、2025年5月3日、「戦争させない、9条壊すな!」5・3兵庫憲法集会を、約1万人の市民の参加で、神戸・みなとのもり公園で開催し、市民の思いと行動力を、多くのみなさんのご協力をとおもいます。

戦争させない、9条壊すな! 5・3兵庫憲法集会

日時 2025年5月3日(土) 13:00~14:00
場所 神戸・みなとのもり公園
規模 10,000人
メインスピーカー 島山 遼子さん (ピースボート)

憲法を活かす1万人意見広告運動・兵庫

●メインスローガン「今こそ憲法が輝くとき」を柱に意見広告を発表します。
●賛助会金1口1,000円(団体は5口以上)で名前(団体名)を掲載します。賛助額は50倍額となります。
●各、各の賛助会金は「戦争させない、9条壊すな!」5・3兵庫憲法集会の賛助会金も兼ねることとします。
●最終集約日は、4月18日となります。
●参加費 賛助会費は下の払込取扱票をご使用ください。賛会金をご利用の場合は裏面をご確認ください。

戦争させない、9条壊すな! 戦がかり行動兵庫実行委員会 (通称: 戦がかり行動兵庫)
連絡先: 中神戸法律事務所 TEL. 078-341-3332 FAX. 078-361-9990 e-mail: sougakarihyogo@gmail.com

歴史的な節目の年の意義深い集会だ。いま、世界では戦禍が広がり、日本は日米軍事一体化のもと、軍備の増強で戦争準備に大きく歩を進めている。とりわけ敵基地攻撃能力が拡大・整備され、憲法9条がまさに危機的な状況だ。歴史の教訓を蔑ろにするこの流れを止め、押し返す力の拡大が問われている。その意味からも「5・3兵庫憲法集会」の成功は大きな意義と役割を持っている。自分の回りの人たちに働きかけて1人でも多くの参加を実現させて集会を成功させよう。



リニア計画の問題点についてジャーナリストの榎田秀樹さんが講演した=4月12日、国労大阪会館

被爆・戦後80年

戦争させない、9条壊すな! 5・3兵庫憲法集会 5月3日(土) 13時 / 神戸・みなとのもり公園 1万人規模で成功させよう

「戦争させない、9条壊すな!」総がかり行動兵庫実行委員会が、1万人規模で成功させよう

歴史的な節目の年の意義深い集会だ。いま、世界では戦禍が広がり、日本は日米軍事一体化のもと、軍備の増強で戦争準備に大きく歩を進めている。とりわけ敵基地攻撃能力が拡大・整備され、憲法9条がまさに危機的な状況だ。歴史の教訓を蔑ろにするこの流れを止め、押し返す力の拡大が問われている。その意味からも「5・3兵庫憲法集会」の成功は大きな意義と役割を持っている。自分の回りの人たちに働きかけて1人でも多くの参加を実現させて集会を成功させよう。

ノーマン・ニコラ

尼崎事故20年に問うリニアとJRの安全

生命と安全を守る集会

乗客106人と運転士1人が亡くなり、562人が負傷する未曾有の鉄道事故となったJR福知山線脱線事故から20年となる4月25日を前に、「ノーマン・ニコラ 生命と安全を守る集会」が4月12日、「尼崎事故20年に問うリニアとJRの安全」として、国労大阪会館で開かれた。記念講演は「住民の合意なきリニア計画」と題

してジャーナリストの榎田秀樹さんが行い、工事が各地で大幅に遅れ、気泡の湧出、水源の減濁水、地盤沈下などの懸念が現実化している深刻な事態を報告し、混迷を深めるリニア計画の背景にリニア推進のために住民を蔑ろにする自治体の姿勢があると問題を提起。つづいて、JRの安全問題についての報告と問題提起が藤原浩二さん

(国労大阪)と有田修三(国労近畿地本副委員長)から行われ、諸施策が採られつつもJRの安全軽視体質は基本的には事故後も大きく変わっていないことを告発した。また、この集会に毎回、北海道から参加し発言を続けている安全問題研究会の地協聖孝さんからはローカル線問題について、JR北海道の現状を中心に報告しながら、「ローカル線の現状と全国鉄道再建への具体策」として、①地方交付税の算定根拠に鉄道を加えること、②JR北海道の国有化、③

斎藤知事の即時辞職を求める
4.23ヒューマンチェーン第2波
●4月23日(水) 14:00~15:00
●兵庫県庁2号館前・南側歩道
〈問い合わせ先〉090・4288・2121

「夜桜通り抜け」でアピール

「王子公園・市民ミートン」実行委員会

「王子公園の未来はみんなで決める!」と、神戸市灘区の王子公園再整備問題をめぐり、住民の声を反映されるよう市の紙撤回を求めている「王子公園・市民ミートン」実行委員会は、今年も王子動物園の「夜桜通り抜け」の参加者に向けてスタンディング行動でアピールを行った。今年度の「夜桜通り抜け」は4月3日〜5日。開園1時間前から、ベビーカー連れの親子、高齢者、子ども、外国人まで多くの人が訪れ、動物園前には長蛇の列ができた。同



4月5日の夕方、王子動物園前で

【おことわり】次号はゴールデンウィークの関係上、5月21日付発行の合併号となり、5月の発行はこの1回のみです。【編集部】

水脈

駅前再開 発が終ると 業種に関わらず小さい店は消え、全国チェーン店に変わる。書店などはビルに入り、床面も書籍数も各段増える。物価高騰の中、書籍も多分にもれず高くなり図書館を利用する人も多いが、本を読むことそのものが減っているとの分析もある▼「なぜ、日本の街の本屋だけが消えていくのか?」のコラムからの紹介だが、注文翌日に届くネットでの購入が増えたこともあり、フランスでは「アマゾン法」により無料配達、制限で街の書店を保護、ドイツでは書籍の注文が翌日に書店に届く流通体制があるそうだ▼先日、事務所の近くの書店で落語会があった。狭い店内に40席。どうするか興味深かったが、書棚はキヤスター付き。平台を3人掛けの長椅子に。CDラジカセからの出囃子で2時間たっぷり笑わせてもらった。別の書店ではジャズ演奏や絵本の読み聞かせなど街の本屋さんには珍張っている▼今、私が読んでるのはダニエル・ネフェサイさんの「イスラエル軍元兵士が語る非戦論」。埼玉県で家具職人をしながら「非武装中立」を主張し講演活動が続いている。ガザへの攻撃が始まってから1年半。ガザの死者は5万人を超えた。武力で平和は実現しない。

私の主張

「第三者委員会の報告は、先に出された県議会の百条委員会の調査報告よりもさらに厳しく踏み込んだもので、パワハラについては10項目を認定し、告発者探しについては公益通報者保護法に照らして「違法」と断定、元県民局長の懲戒処分は「明らかに違法で無効」と県の対応を厳しく批判したものだ。しかし、この2つの報告に対し、斎藤知事はこれらの受け入れを拒否し

フランスのポピュリズムを分析・考察 フランスの学者らが講演 2025社会主義ゼミナールin近畿



フランスから来日した2人の教授と薬師院仁志、帝塚山大学教授の3人の講師陣＝3月22日、大阪市

「2025社会主義ゼミナールin近畿」が3月22日、大阪のPLP会館の動向ポピュリズムの

正体。帝塚山大学の薬師院仁志教授の呼びかけで、3人の講師陣と42人が参加した。JSPS科研費の支援を受けたもので、フランスから招かれたアリ・アイト・アデルマック教授（フランス・レンヌ大学）とシエル・デユバキエ教授（同）から講演を受けた。

まず、薬師院教授から予備知識として「ポピュリズムの定義と歴史（概論）」について解説を受けたのち、アデルマック教授からは「ポピュリズムの構造」について、デ

ユバキエ教授から「文化資本」に基づく4つの階級（資本家階級、知識層、中流階級、消費者型中流階級、従属的庶民階級）の文化と政治意識調査の分析の解説を受けた。アデルマック教授の「ポピュリズムの台頭は、ある一つの世界の終わりではない」と示している。その解説は最も印象深いものだった。

しかし、馴染みの薄いフランスの、しかもポピュリズムがテーマで、正直言ってあまり理解は深まらなかつた感がある。この種のシンポジウムを充実したものにするためには、事前の学習と少なくとも討論テーマの設定が不可欠だと痛感した。また、スマホの同時通訳機能の活用も検討すべきと思った。（佐野修吉）

■第28回統一マダン神戸
⑤月11日（日）11時～15時30分◎キャナルタウン広場（JR兵庫駅・出口南へ直ぐ）◎入場無料
◎雨天決行◎主催◎第28回統一マダン神戸実行委員会

■第57次まなぶ講演会
⑤月14日（水）明石市勤労福祉会館◎15日（木）北区文化センター◎16日（金）垂水文化センター◎21日（水）姫路・花の北市民広場◎23日（金）北市民広場◎23日（金）神崎郡市川町就業センター

一、ヘリポート機能を有する米軍基地があり、近隣住民は騒音に悩まされ、事故発生時の不安を抱えている。同区ではヘリポート基地の撤去を求めている。港区と港区議会は米軍ヘリポート基地の早期撤去を目指して、防衛省に緊急要請を行った。自衛隊の統合戦司令部の近くに、米軍の統合司令部が設置されたことにより日常的に連絡・調整を行うことになる。前号でも触れたが、圧倒的な軍事力と情報収集能力を持つ在日米軍の判断に引きずられ、その指揮下に自衛隊が組み込まれる危険が高まる。

「斎藤兵庫知事 組織の長として失格だ」（朝日）、「兵庫第三者委 知事の資質欠如は明らかだ」（読売）、「違法」認めぬ兵庫知事 トップの任に値するの（毎日）、「兵庫知事 『違法』の責任を直視せよ」（産経）、「責任認めて自らの処分を」（神戸）――。

当然と言えば当然なのだが、斎藤元彦兵庫知事をめぐる厳しい評価が並んだ。知事の「パワハラ疑惑等の告発文書や告発者への対応の調査のために県が設置した第三者委員会の調査報告を受けて3月26日に行われた知事の記者会見後の全国紙の社説の見出しだ。社説としては相当踏み込んだ厳しい表現である。ほとんどの全国紙が、斎藤知事は知事としてふさわしくないと社説で主張したのだ。

第三者委員会の報告は、先に出された県議会の百条委員会の調査報告よりもさらに厳しく踏み込んだもので、パワハラについては10項目を認定し、告発者探しについては公益通報者保護法に照らして「違法」と断定、元県民局長の懲戒処分は「明らかに違法で無効」と県の対応を厳しく批判したものだ。しかし、この2つの報告に対し、斎藤知事はこれらの受け入れを拒否し

たのである。第三者委員会が認定したパワハラについては言葉では一応の謝罪はしたものの、違法と断定されたものに対しては、「真摯に受け止める」という言葉で逃げ続け、告発者探しや懲戒処分などの対応は「適正に処理した」という主張を貫き、その後も変わることもなく受け入れを拒み続けている。自分の行為が違法だと断定されても、そのことには向き合わず、何の理由も根拠もなく自らの正当性だけを憚ることなく主張する。ここには遵法精神の欠片もなく、ただ「自分は正しい」という主張が繰り返されている。自分の行為が違法だと断定されても、そのことには向き合わず、何の理由も根拠もなく自らの正当性だけを憚ることなく主張する。ここには遵法精神の欠片もなく、ただ「自分は正しい」という主張が繰り返されている。

この姿勢が続く限り、県政の混乱・混迷は収まらない。先日、兵庫県の今年度の新規採用職員150人のうち46%にあたる69人が辞退した（昨年の約2倍）との発表があったが、県知事による県政の混乱が大きな原因だろうと言いがたい。

■米軍、都心部に「統合軍司令部」設置 指揮・作戦立案権限 陸海空自衛隊をまとめて指揮する統合戦司令部が発足については前号で触れた。統合戦司令部のカウンタートパート（対応相手）には、在日米軍司令部を再編成し、これまで持っていなかった作戦指揮権を行使できる「統合軍司令部」があたり。米軍は、統合軍司令部を都心部の港区六本木にある米陸軍基地に設置する（防衛省の近く）。港区には東京23区で唯一、ヘリポート機能を有する米軍基地があり、近隣住民は騒音に悩まされ、事故発生時の不安を抱えている。同区ではヘリポート基地の撤去を求めている。港区と港区議会は米軍ヘリポート基地の早期撤去を目指して、防衛省に緊急要請を行った。自衛隊の統合戦司令部の近くに、米軍の統合司令部が設置されたことにより日常的に連絡・調整を行うことになる。前号でも触れたが、圧倒的な軍事力と情報収集能力を持つ在日米軍の判断に引きずられ、その指揮下に自衛隊が組み込まれる危険が高まる。

理不尽な居座りは許されない 斎藤知事は責任を取り辞職を

とする独善性があるだけだ。しかも、その前置きには、自分の態度とは明らかに矛盾する「真摯に受け止め……」というフレーズが必ず壊れたレコードのように繰り返される。26日の記者会見では「真摯に」という言葉は30回も連発されたとの報道もあった。「この人には言葉や論理が通じない」（ある社説の中の表現）。

と容易に想像できる。せっかく地方公務員の採用試験に通った者にそんな知事の下では働きたくないというような心情を与えているとしたら、県にとっても大きな損失で、これも県政の混乱の一端だ。

第三者委員会の報告を「真摯に受け止める」と言うならば、知事は自ら責任を取り、ただちに辞職するのが筋である。パワハラを理由として職員には処分を行った事例もありながら、自らのパワハラには処分をしないとする理不尽な対応では職員の不信は増すだけであ

り、どんなに「県政を前に進める」と言い募ったところで、県政の円滑な運営は望めない。告発文書に端を発し、3人の犠牲者も出している今回の一連の問題は、今に至る斎藤知事自身の態度も含めて、民主主義と人権がいかんにか軽んじられ、蔑ろにされているかを端的に物語っている。

知事は選挙で再選されたことを後ろ盾にしているのだから、その選挙が、反対派へのデマや誹謗中傷がSNSで大量に拡散され、関係者への暴力的な脅迫まで行われ、「2馬力選挙」というかつてない異常なことが行われた選挙であり、また、それらに対していくつもの刑事告発・告訴が行われているような民主主義を根底から壊すような選挙戦であったことを県民は忘れていない。

もはや呆れるしかないほどだが、告発文書が公益通報と認定され、その対応への違法性が指摘されたにもかかわらず依然として「告

白」を繰り返している。この姿勢が続く限り、県政の混乱・混迷は収まらない。先日、兵庫県の今年度の新規採用職員150人のうち46%にあたる69人が辞退した（昨年の約2倍）との発表があったが、県知事による県政の混乱が大きな原因だろうと言いがたい。

知事は選挙で再選されたことを後ろ盾にしているのだから、その選挙が、反対派へのデマや誹謗中傷がSNSで大量に拡散され、関係者への暴力的な脅迫まで行われ、「2馬力選挙」というかつてない異常なことが行われた選挙であり、また、それらに対していくつもの刑事告発・告訴が行われているような民主主義を根底から壊すような選挙戦であったことを県民は忘れていない。

知事は選挙で再選されたことを後ろ盾にしているのだから、その選挙が、反対派へのデマや誹謗中傷がSNSで大量に拡散され、関係者への暴力的な脅迫まで行われ、「2馬力選挙」というかつてない異常なことが行われた選挙であり、また、それらに対していくつもの刑事告発・告訴が行われているような民主主義を根底から壊すような選挙戦であったことを県民は忘れていない。

知事は選挙で再選されたことを後ろ盾にしているのだから、その選挙が、反対派へのデマや誹謗中傷がSNSで大量に拡散され、関係者への暴力的な脅迫まで行われ、「2馬力選挙」というかつてない異常なことが行われた選挙であり、また、それらに対していくつもの刑事告発・告訴が行われているような民主主義を根底から壊すような選挙戦であったことを県民は忘れていない。

改憲の動きをウォッチング

■衆・参憲法審査会 緊急時の国会機能など論点に議論始まる
衆議院憲法審査会は3月13日、参議院憲法審査会は4月2日、それぞれ議論を開始した。今後、おおむね週1回のペースで議論を進めていくことで与野党が合意している。衆議院の定例日は木曜日、参議院は水曜日。

一、ヘリポート機能を有する米軍基地があり、近隣住民は騒音に悩まされ、事故発生時の不安を抱えている。同区ではヘリポート基地の撤去を求めている。港区と港区議会は米軍ヘリポート基地の早期撤去を目指して、防衛省に緊急要請を行った。自衛隊の統合戦司令部の近くに、米軍の統合司令部が設置されたことにより日常的に連絡・調整を行うことになる。前号でも触れたが、圧倒的な軍事力と情報収集能力を持つ在日米軍の判断に引きずられ、その指揮下に自衛隊が組み込まれる危険が高まる。

自民党が狙っている最大のテーマは、大規模災害といった緊急時に国政選挙が困難な場合の議員任期の延長。国会機能がなくなれば大変だから任期延長もやむを得ないといった世論に期待してのことであろう。

政府は軍事力強化の一環として、戦時に備えて整備する「特定利用空港・港湾」に北海道や沖縄など7道県の計8カ所を追加する（東京新聞）。この追加で全国の対象施設は11空港、25港湾の計36カ所となる。

任期延長の議論は、自民党の緊急事態条項の議論と一体のものとして進められている。自民党の改憲案の緊急事態条項には議員の任期延長と内閣による緊急政令の制定（法律と同一の効力を有する政令の制定）が盛り込まれている。

政府は軍事力強化の一環として、戦時に備えて整備する「特定利用空港・港湾」に北海道や沖縄など7道県の計8カ所を追加する（東京新聞）。この追加で全国の対象施設は11空港、25港湾の計36カ所となる。

政府が国会の立法権をばく奪し、権力を内閣に集中させることによって人権制限を容易にし、立

政府は軍事力強化の一環として、戦時に備えて整備する「特定利用空港・港湾」に北海道や沖縄など7道県の計8カ所を追加する（東京新聞）。この追加で全国の対象施設は11空港、25港湾の計36カ所となる。

政府が国会の立法権をばく奪し、権力を内閣に集中させることによって人権制限を容易にし、立

政府は軍事力強化の一環として、戦時に備えて整備する「特定利用空港・港湾」に北海道や沖縄など7道県の計8カ所を追加する（東京新聞）。この追加で全国の対象施設は11空港、25港湾の計36カ所となる。

参加してきました

関電は約束守れ！ 全国から200人が美浜町に集結



関電原子力事業本部前で集会をしたあと美浜町内をデモ行進する参加者＝3月31日、福井県美浜町

老朽原発うごかすな！
実行委員会が主催する
場はないぞ 関電は約束

「約束を守れ！」と訴えることを主旨として平日にもかかわらず現地で開かれたものだったが、関

守れ！美浜集会」が3月31日、福井県美浜町にある関西電力原子力事業本部前で開かれ、参加してきた。兵庫県の参加者は8人で、全体では約200人の参加だった。

この集会は、関電が、3月31日までに使用済み核燃料を県外に移設できないときは原発を止めるという約束を福井県知事との間でしていたため、「約束を守れ！」と訴えることを主旨として平日のデモは町内の狭い通りまでをくまなく歩くコー

電は今度も約束を反故にしていた。現地のメンバーは「約束反故は6回目くらいだ」と報告していた。

集会では各地からの報告があり、兵庫の参加者を代表して菅野から昨年「脱原発兵庫ネットワーク」を結成したこと、「3・9福島原発事故から14年集会」を開催したことを報告した。

集会は14時には終わり、その後は町内デモ。今回のデモは町内の狭い通りまでをくまなく歩くコー

毎月第2、第4火曜日に続けている行動＝4月8日、JR元町駅前



さらに、イスラエルは軍事的な支配地域を拡大するともに、ガザへの物資の搬入を止めているため、ガザの人々は一段と深刻な人道危機の状況にある。

第11回東灘憲法カフェ
戦争の記憶を若者から後世につなぐ
未来への架け橋
●5月31日(土) 13:00～15:30
●東灘区・横尾会館 参加費300円

イスラエルはジェノサイドをやめろ ガザの戦闘は即時停戦を フォーラム平和・ひょうごが街宣行動

イスラエル軍とイスラム組織ハマスの戦闘が始まって4月7日ちょうど1年半。この間、イスラエル軍の攻撃でガザでの死者数は5万人を超え、そのうち子どもの犠牲者00人にのぼる。

総会で1年間の活動を確認 マイナ保険証問題についての講演も 憲法を生かす北区の会

ひろば」の発行、そして500人が足を運んだウクライナ写真展の開催と、今年度の生かす会の取り組みの内容とその成果を確認した。生かす会の運営の会計はカンパや八朔の販売の収入で行われており、その会計報告も行われた。最後には、新しいメンバーを増やす努力をしながら今年度の活動を進めていくことを意思統一して総会を終えた。

総会後は、山田誠一さん(元神戸市職員)からマイナ保険証の問題について批判的な問題提起を受けた。山田さんと以前同じ職場だった人や、写真展で会場当番をしてもあった人など、初参加の人もあった。講演終了後は、参加者から活発に質問や意見が出され、マイナ保険証の問題点がさらに明らかになった。

憲法を生かす北区の会は今、スタンディング行動で「マイナ保険証を使っていますか」のシールアンケートを呼びかけながら紙の保険証を残すことを訴えている。マイナ

総会では先立つDVD上映会とDVD上映会開催
平和憲法を守る高砂市民の会
氏が呼びかけ人となった「九条の会」発足に呼応する形で2006年に約100人で「高砂市民の会」が発足して20回目の総会であった。

DVDを観賞＝3月23日、高砂市

DVDを観賞＝3月23日、高砂市

DVDを観賞＝3月23日、高砂市

DVDを観賞＝3月23日、高砂市

DVDを観賞＝3月23日、高砂市

DVDを観賞＝3月23日、高砂市

DVDを観賞＝3月23日、高砂市

DVDを観賞＝3月23日、高砂市

DVDを観賞＝3月23日、高砂市

DVDを観賞＝3月23日、高砂市

DVDを観賞＝3月23日、高砂市

若者のひろば

僕は高校野球が好きで、センバツ大会もあったので、そんな趣味の話を書くのもよいと言われたが、偶然にもこのタイミングで執筆を依頼されたので、先日亡くなった石川一雄さんのことについて書くと思う。

僕の通っていた小学校の校区には被差別部落があり、社会見学なのか何なのか、地元では文化センターと呼ばれている、いわゆる隣保館へ授業の一環として行くこともあった。当時、石川さんはまだ獄中にいて、会館の壁の張り紙ではバカボンのパパやドラえもんが、「石川さんを返せ」と叫んでいた。

小学校では月曜日の1時間目だったと思う、道徳の授業が「同和道徳」という名前であり、『にんげん』という教材を用いて様々なことを学んだ。その内容の何が素晴らしいかというと、部落差別だけでなく、女性、在日朝鮮人、いじめなどあらゆる人権問題について言及していたことである。この教育が今の僕の人間性を構築している。

その後も何かと部落解放運動とは縁があり、大学を卒業して最初の職場は、上田卓三さんの地元であり、大質理論で有名な大賀正行さん、弟の山

中多美男さんとも顔を合わせる機会があった。

この新聞を読んでいる方々は僕よりも詳しい人ばかりだろうから、狭山事件についての説明は控えるが、この件について僕がいつも思いを馳せるのは、自分が石川さんの立場だったら、どのような人生だったかということである。24歳のとき無実の罪で逮捕され、強引な取り調べをされ、翌年

石川一雄さんを想う

小さい会場で交流会に参加させていだいた。彼の話を聞くたびに感じるのは、一つに国家権力への怒りであり闘志である。それが生きる原動力だったのだと思う。もう一つは文学的な感性の豊かさである。逮捕時は読み書きもままならなかったらしいが、獄中で文字を学び、生涯にわたって数多くの歌を詠んでいる。もう一つ印象的だったのは講演会での発言。彼は「この事件があって良かった」と言った。差別の実態について知ることができたこと、こんなにも多くの人が支援してくれる縁ができたこと。そんな言葉を誰が語ることができたのだろうか。

僕は狭山事件について、一般的な冤罪事件ではなく差別事件なのだということを強調したい。有力な説として警察権力が相次ぐ失態の面子を保つために、部落民である石川さんを逮捕したと言われている。差別は絶えず秒ごとに社会に存在しているのである。決して狭山事件は終わっていない。石川さんの存命中に無罪を勝ち取れなかったことは無念で仕方ないが、西から東に無美を叫び続けることはならない。



(西村結生)

『14歳から考える恒久平和のつくり方』

花岡しげる著／花伝社／1500円＋税

帯には、君たちに戦争のない日本を引き継ぐための「積極的非武装中立論」とある。憲法9条を「お花畑」の世界と揶揄し、抑止力を高めることが国家の平和を守るかのように叫ばれる今日において、最も「現実的」かつ「積極的」な平和国家づくりは非武装中立である、と、若者たちに話しかける書である。

著者の経歴は、一般的な平和運動家のそれと比べ異色といえる。1943年に生まれ、東大法学部卒業の後、カリフォルニア大学バークレー校で経営学修士を得る。日本勧業銀行に入行、カナダ第一勧銀頭取、国内支店長、大手電機メーカー取締役などを歴任。その間、ニューヨーク、ロンドン、トロントなど15年以上にわたる海外駐在生活を送った。60歳を迎えた2003年、「自衛隊イラク派兵

若者に伝える積極的非武装中立論

策だと伝えるために、執筆だけでなく全国各地へ講演行脚を続けている。本書は、全3章の構成だ。第1章「二度と戦争をしない、巻き込まれない」と、第2章「世界に誇れる地球の宝『平和憲法』では、国が仕掛けた戦争の結果、多くの人が犠牲になったにもかかわらず、責任も取らず補償もない国の姿勢や、明治時代の富国強兵策によって軍力を蓄え、朝鮮出兵や近隣アジア諸国への侵略から1945年8月15日に無条件降伏するまでの半世紀余り、外国に侵略戦争を仕掛け続けた軍国主義国家日本の姿を、戦争体験者の証言と合わせ明らかにしている。そして、二度と戦争をしないと決意して誕生した「日本国憲法」を、解釈によって改憲して集団的自衛権行使を認める最近の国家政策は、「明らかに戦争準備」だと警鐘を鳴らす。私たちの身近には、かつての戦争施設が自衛隊基地や米軍施設として使用されているところがある。それらを訪ね、なぜそうなっ

ているかを考えてほしいとも呼びかけている。第3章『恒久平和と日本』のつくり方』は、本書のメインだ。著者は、非武装中立は夢物語ではなく、実現可能な具体策だと主張する。不戦・非武装を願う人さえ、理想だけでなく現実の難しいと半ば諦めるのは、これまで具体的な目標と道筋を考えてこなかったからだと言いつつ、著者は、3つの目標（①防衛省を廃止して新しく防災平和省を作る、②日米

安全保障条約を解消して日本を真の独立国にする、③日本を一人の兵士もいない非武装で中立の国にする）を提案する。防災平和省はその名前の通り災害救助を仕事とし、世界への貢献として要請があれば海外へも派遣される「国際災害救助即応隊（通称ジャイロ）」として組織される。これらの組織には現在の自衛隊員約25万人が改編されるだけでなく、新たな人員も加え50万人体制（男女比1:1）にする。日常は、訓練だけでなく地域の課題、例えば高齢化が進む農村地域への派遣など、地域を支える仕事に従事するなど、人々の暮らしを支える。新社会党が結党時から訴えてきた「自衛隊を災害救助隊へ改編する」方針と同じ考えだ。

攻められた時に「丸腰で大丈夫なのか」との問いにも、軍備や米軍の駐留が戦争につながる「危険」な存在であり、「丸腰」になることで守られると、条約などを解説しながら丁寧に答える。文字も大きく、漫画やイラストが挿入され読みやすい。若者と向き合おうとする活動家にこそ読んでほしい1冊だ。（岡崎宏美）

名もなき者

この映画の主人公はボブ・ディランである。「風に吹かれて」などの名曲があり、2016年ノーベル文学賞を受賞したディランの若き日の姿を描いている。

監督・脚本・プロデュースを務めたのは『ウォーク・ザ・ライン―君につづく道』（2005

年）などのあるジェームズ・マンゴールド。彼は本作を、「これは、ある人の人生すべてではなく、ある特定の瞬間についての物語。そして、歌で多くのことが伝えられる世界についての物語なんです」と語っている。1961年、アメリカ・ニューヨークシティ。ひとりの青年、ロバート・アレン・ジマーマン（ボブ・ディラン（ティモシー・シヤラメ）が現れる。彼は、敬愛するフォークシンガー、ウディ・ガスリー（スクー



そして、プロ・ミュージシャンとしてのキャリアと出会い愛し合う。1962年、アメリカは冷戦激化の末、キューバ危機といわれる核戦争の脅威の中にあつた。だが、ディランはそんなアメリカ社会を自らの歌で見据え、歌い続けた。1963年、モンタレー・フォーク・フェスティバルでディランは、多くの若者からその才能を認められ人気は高まってくる。人種差別撤廃のためのワシントン大行進で演奏し、成功への道を歩んでいく。1965年、「フォーク界のプリンス」となったディラン。彼は、変わらぬ周囲の期待やレッテルに耐えられず、ロックサウンドに乗せた新曲「ライク・ア・ローリング・ストーン」を世に問

うことになる。1965年7月25日、恋人のシルヴィ、同志シガー、友人キャッシュたちの見守る中、ニコボード・フォーク・フェスティバル・フィナーレでディランは飾るのだが。ボブ・ディランの青年時代を描いた本作では、ボブ・ディランを演じているティモシー・シヤラメの歌声が素晴らしい。他のシンガーを演じた俳優たちの歌も心に染み入るものであった。同時代に在った者として、ティモシー・シヤラメの歌声が懐かしく想い出された。（シネマ翁）

シネマランド

若き日のボブ・ディランを描く伝記ドラマ

監督ロジェームズ・マンゴールド／2024年／米／140分